

## 編 集 後 記

近年ほど「環境」が声高にコメントされる時代はなかったように思う。それだけ水質・大気の汚染が進み、動植物の生息状態が悪化していることになろう。筆者は先日北京市およびその近郊を訪問する機会に恵まれたが、大気汚染の実情をつぶさに体験してきた。環境保護・改善には国際的な協力の必要性を再認識した。

本学の環境管理センターは、水質に対する責任を負っているが、本年はセンター発足20周年に当たるので、それを記念して「水」だけでなく広い意味での環境問題に関する論文をご執筆いただいた。お礼を申し上げます。

(尾 坂 明 義)